

# Taxonomic review of the scorpionfish genus Scorpaena (Teleostei: Scorpaenidae) in the Indo-Pacific Ocean

著者	WIBOWO Kunto
ファイル(説明)	博士論文全文 博士論文要旨(English) 博士論文要旨(日本語) 最終試験結果の要旨 論文審査の要旨
別言語のタイトル	インド・太平洋におけるフサカサゴ属魚類の分類学的研究
学位授与番号	17701甲連研第998号
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/00031790">http://hdl.handle.net/10232/00031790</a>

## 学位論文審査結果の要旨

学位申請者 氏名	Kunto Wibowo
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 本村 浩之
	副査 鹿児島大学 教授 寺田 竜太
	副査 鹿児島大学 教授 山本 智子
	副査 鹿児島大学 准教授 坂巻 祥孝
	副査 鹿児島大学 准教授 久米 元
審査協力者	印
題目	インド・太平洋におけるフサカサゴ属魚類の分類学的研究 Taxonomic review of the scorpionfish genus <i>Scorpaena</i> (Teleostei: Scorpaenidae) in the Indo-Pacific Ocean
<p>インド・太平洋におけるフサカサゴ属<i>Scorpaena</i>魚類の分類学的研究をおこなった。本研究では4新種 (<i>Scorpaena longaecrista</i>, <i>Scorpaena regina</i>, <i>Scorpaena sororreginae</i>, および<i>Scorpaena vesperalis</i>; いずれも本研究中で記載されたオーストラリア産の小型種) を含めた21有効種をフサカサゴ属魚類に認めた。原記載以降報告がなかった<i>Scorpaena dabryi</i> Sauvage 1878は、タイプ標本と多くの一般標本の調査に基づき、東アジアに生息するコクチフサカサゴ<i>Scorpaena miostoma</i> Günther 1877の新参異名であることが明らかになった。<i>Scorpaena fimbriata</i> Döderlein 1884、<i>Scorpaena izensis</i> Jordan and Starks 1904、<i>Scorpaena hemilopidota</i> Fowler 1938、および<i>Scorpaenopsella armata</i> Fowler 1938の4名義種は、これまでイブカサゴ<i>Scorpaena neglecta</i> Temminck and Schlegel 1843の亜種または有効種と扱われてきたが、タイプ標本と分布域広域から得られた多数の追加標本の調査から、上記の4名義種は全てインド・西太平洋に生息する<i>S. neglecta</i>の新参異名であることが明らかになった。<i>Scorpaena pele</i> Eschmeyer and Randall 1975は、原記載以降これまでハワイ固有種と考えられていたが、本研究によってインド・太平洋の広域</p>	

に生息するフサカサゴ *Scorpaena onaria* Jordan and Snyder 1900の新参異名であることが確認された。*Scorpaena cruenta* Solander 1842、*Scorpaena ergastulorum* Richardson 1842、および*Scorpaena militaris* Richardson 1842は、*Scorpaena papillosa* (Schneider and Forster 1801)の新参異名とみなされ、*S. papillosa*に対してネオタイプを指定した。また、*S. papillosa*にはそれぞれ異所的に分布する*S. papillosa papillosa* (ニュージーランド) と*S. papillosa ergastulorum* (*S. militaris*の古参異名、オーストラリア) の2亜種が認められた。*Scorpaena plebeia* Solander 1842と*Scorpaena cookii* Günther 1874は、ニュージーランドに生息する*Scorpaena cardinalis* Solander and Richardson 1842の新参異名であることが確認され、*Scorpaena natalensis* Regan 1906はインド洋に生息する*Scorpaena scrofa* Linnaeus 1758の新参異名であることが明らかになった。

これまで情報が不足していた*Scorpaena barbata* Bonnaparte 1788、*Scorpaena spinosa* Gmelin 1789、*Scorpaena gronovii* Walbaum 1792、および*Scorpaena asperella* Bennet 1828の4名義種は不適格名とみなされた。また、*Scorpaena aplodactylus* Bleeker 1852、*Scorpaena peruana* Hildebrand 1946、および*Scorpaena linegula* Fowler 1955の3種はフサカサゴ属ではなく、マダラフサカサゴ属*Sebastapistes*に帰属、*Scorpaena polyprion* Bleeker 1849、*Scorpaena zanzibarensis* Playfair 1867、*Scorpaena dentate* Günther 1874、*Scorpaena bleekeri* Day 1878、および*Scorpaena voelzkowi* Jatzow and Lenz 1898の5種はネッタイフサカサゴ属*Parascorpaena*に帰属されることが明らかになった。

本研究では、インド・太平洋産フサカサゴ属各種の識別的特徴、異名関係、分布域、および検索表を示した。さらに、フサカサゴ属の形態学的再定義を行い、近縁のマダラフサカサゴ属との相違を明らかにした。

以上のように、本研究では水産上重要なフサカサゴ属魚類をインド・太平洋広域から得られた膨大な一般標本とタイプ標本に基づき、属の再定義や多くの学名変更を伴う分類学的検討を実施した。この結果、本属魚類は外部形態による正しい種同定が可能となった。この研究成果は魚類学のみならず、海洋生物学の基礎的知見として多大な貢献をすることが期待される。よって本論文は、学位論文として十分な価値があるものと判定した。